

## 第4講

### アイヌのおかげで豊かになった —幕藩体制にとっての蝦夷地の意味— (2004 年度第3問)

次の(1)～(3)の文章は、江戸時代における蝦夷地の動向について記したものである。これらを読んで、下記の設問に答えなさい。

- (1) アイヌは、豊かな大自然の中、河川流域や海岸沿いにコタン（集落）を作り、漁業や狩猟で得たものを、和人などと交易して生活を支えた。松前藩は蝦夷地を支配するにあたって、有力なアイヌを乙名おとななどに任じ、アイヌ社会を掌握しようとした。また藩やその家臣たちは、アイヌとの交易から得る利益を主な収入とした。
- (2) 18世紀に入ると、松前藩は交易を広く商人にゆだねるようになり、18世紀後半からは、全国から有力な商人たちが漁獲物や毛皮・木材などを求めて蝦夷地に殺到した。商人の中にはアイヌを酷使しながら、自ら漁業や林業の経営に乗り出す者も現れた。また同じころ、松前・江差・箱館から日本海を回り、下関を経て上方にいたる廻船のルートが確立した。
- (3) 蝦夷地における漁業は、鮭にしん・鮭あわび・鮑・昆布などが主なものであった。鮭は食用にも用いられたが、19世紀に入ると肥料用のしめかす粕などに加工された。鮭は塩引として、食用や贈答品に用いられ、また、なまこや鮑も食用に加工された。

#### 設問

18世紀中ごろまでには、蝦夷地は幕藩体制にとって、なくてはならない地域となっていた。それはどのような意味においてだろうか。生産や流通、および長崎貿易との関係を中心に、6行（180字）以内で説明しなさい。

解いてみましょう

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア  について書く。

イ  を中心にして書く。

ウ  を中心にして書く。

エ  を中心にして書く。

オ 6行（180字）以内で書く。

2 資料と教科書の内容とを照らし合わせる。

(1) 資料(1)と(2)の前半の記述に関する教科書のページと内容は、



(2) 資料(2) の後半の記述に関する教科書のページと内容は、



(3) 資料(3) の記述に関する教科書のページと内容は、



3 与えられた資料と教科書の記述から抜き出して作成した「東大チャート」を解く。

次のページに「東大チャート」があります。上記の「関連する教科書のページと内容」からの抜粋も記されています。

東大チャート「幕藩体制にとっての蝦夷地の意味」(2004年度第3)

(  へは、ほぼ抜き出して入れる。  へは、考えて「決めぜりふ」を入れる。)

(1) アイヌは、豊かな大自然の中、河川流域や海岸沿いにコタン(集落)を作り、漁業や狩猟で得たものを、和人などと交易して生活を支えた。松前藩は蝦夷地を支配するにあたって、有力なアイヌを乙名などに任じ、アイヌ社会を掌握しようとした。また藩やその家臣たちは、アイヌとの交易から得る利益を主な収入とした。

【教科書の記述】

蠣崎氏は、近世になると松前氏と改称して、1604(慶長9)年、徳川家康からアイヌとの交易独占権を保障され、藩制をしいた。

(略)アイヌ集団との交易対象地域は、商場あるいは場所と呼ばれ①、そこでの交易収入が家臣に与えられた。(略)さらに18世紀前半頃までには、多くの商場が和人商人の請負となった(場所請負制度)

①松前氏と家臣団との主従関係は、このアイヌとの交易権を知行として与えることで結ばれており、この制度を商場知行制と呼ぶ。(P182.L4~L154)

(2) 18世紀に入ると、松前藩は交易を広く商人にゆだねるようになり、18世紀後半からは、全国から有力な商人たちが漁獲物や毛皮・木材などを求めて蝦夷地に殺到した。商人の中にはアイヌを酷使しながら、自ら漁業や林業の経営に乗り出す者も現れた。また同じころ、松前・江差・箱館から日本海を回り、下関を経て上方にいたる廻船のルートが確立した。

【教科書の記述】

17世紀後半になると、江戸の商人河村瑞賢が、出羽酒田を起点とし江戸に至る東廻り海運・西廻り海運のルートを整備し、江戸と大坂を中心とする全国規模の海上交通網を完成させた。(略)一方、18世紀末頃から、日本海の北前船や尾張の内海船など、遠隔地を結ぶ廻船が各地で発達した。(P182.L4~L154)

※のち、西廻り航路では北前船が活躍した。  
(実教『日本史B』P.181.L12)

(3) 蝦夷地における漁業は、鱒・鮭・鮑・昆布などが主なものであった。鱒は食用にも用いられたが、19世紀に入ると肥料用のㇿ粕などに加工された。鮭は塩引として、食用や贈答品に用いられ、また、なまこや鮑も食用に加工された。

蝦夷地では、①藩が、徳川家康から

アイヌとの②を保障されて

③をしいた。①氏は、アイヌとの交易権を家臣に知行として与える

④によって家臣との主従関係を結んだ。その後、①藩が交易を広く

商人にゆだねる⑤に移行すると、全国から商人が殺到して⑥が拡大した。

収穫された⑦は、食用や贈答品となるばかりでなく⑧などに加工され、

商品作物生産に欠かせない肥料として⑨をはじめ各地に出荷されたり、⑩向けの

主要な輸出品である⑪に用いられたり

した。これらの商品は日本海を回り、下関を経て

⑨にいたる⑫をさらに⑬させるとともに、⑭

や内海船などの廻船を⑮させた。

【教科書の記述】

鱒や鮭は干鱒・ㇿ粕などに加工され、綿作などの商品作物生産に欠かせない肥料として上方をはじめ各地に出荷された。(略)17世紀末以降、銅にかわる中国(清)向けの主要な輸出品として俵物(干し鮑・いりこ・ふかひれなど)や昆布がさかんに用いられるようになると、その獲得をめざして、蝦夷地や陸奥で漁業がさかんになった。(P182.L4~L154)

## 抜き出したものをまとめる

蝦夷地では、①藩が、徳川家康からアイヌとの②を保障されて③をしいた。①氏は、当初、アイヌとの交易権を家臣に知行として与える④によって家臣との主従関係を結んでいたが、その後、交易を広く商人にゆだねる⑤に移行すると、全国から商人が殺到して⑥が拡大した。

それにより、蝦夷地は、食用や贈答品ばかりでなく、商品作物生産に欠かせない肥料である⑧の原料や⑩向けの主要な輸出品である⑪に用いる⑦の⑬となった。

決めぜりふを入れる！

また、これらの商品を輸送することで、日本海を回り、下関を経て⑨にいたる⑫をさらに⑬させるとともに、⑭などの廻船を⑮させた。



4 180字に要約する。

今回、問題を解くことで学んだこと